

橿原考古学研究所紀要



—— 第 4 0 冊 ——
2 0 1 7



序

昭和 15 年に行われた皇紀 2600 年事業として、橿原神宮神域拡張工事が昭和 13 年に開始された。神域拡張工事には、神域の拡張と、そこに文化施設（図書館・博物館・野外音楽堂など）と体育施設（陸上競技グラウンド・弓道場など）などが計画され、さらに国民精神涵養を目的とした橿原道場（会館・宿泊施設など）も設けられた。これらの工事に伴って、土器・石器などが出土したことから、工事に併行して発掘調査が実現された。この発掘調査は、その当時の奈良県史蹟名勝天然記念物調査会の委員であった末永雅雄先生が担当され、調査の円滑な遂行のため橿原考古学研究所が設立された。

昭和 20 年の敗戦後の変遷をへて、橿原考古学研究所は、平成 30 年には創立 80 周年を迎えることになる。

橿原考古学研究所の研究成果発表の要である考古学論攷は、昭和 25 年に第 1 冊を刊行した。この号をもって 40 冊目を数えることになった。昭和 54 年以降はほぼ毎年度 1 冊の刊行を行うことが出来ている。この号には、中堅と新鋭職員の 4 名の論文を上梓することができた。各論文は日常の発掘調査などにおける出土遺物と遺構などを出発点とした論攷である。また、近代のいつの時期かに制作された模造品の検証である。こちらも、附属博物館が意見を求められたことを出発点として、研究所の科学分析機器などを用いて、文理融合の研究を遂行したものである。樹種同定を出発点としての研究も同じように、文理融合研究であり、今後の当研究所の進む道のひとつを切り開くものである。

平成 29 年 3 月 10 日

奈良県立橿原考古学研究所
所 長 菅 谷 文 則

目次

序	菅谷文則	
新城の造営計画と藤原京の造営	重見 泰	1
古墳時代大和の木器生産遺跡の検討 —奈良盆地東山間部の谷遺跡から—	鈴木裕明 青柳泰介 福田さよ子 高橋 敦	23
奈良市中山横穴墓の研究	絹畠 歩 前田俊雄 持田大輔	43
明治・大正期における個人収集品の一様相 —「双龍環頭」を中心に—	持田大輔	59

奈良県立橿原考古学研究所紀要

考古学論攷 第40冊

平成29年3月10日 発行

発行 奈良県立橿原考古学研究所

奈良県橿原市畝傍町1番地

印刷 株式会社明新社

奈良県奈良市南京終町3丁目464

ISSN 0287-9271



Proceedings of the
Archaeological Institute of Kashihara
STUDIES IN ARCHAEOLOGY
—— NO.40 ——

Archaeological Institute of Kashihara
Nara Prefecture
2017

